

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

自分を見つけ、自ら学ぶ喜びを知り、多様性を認め、志に向かう力を持って巣立つ生徒を、総合学科の特色を活かして育成する学校。
生徒： 主体的に学校づくりに参加し、自ら考え多くを体験し、自分を見つけ、志を実現すべく学ぶ、卒業後の大きな”伸びしろ”を有する生徒。
授業： 社会の要請と生徒の進路希望・興味関心に応え、生徒の志を実現するために必要な学力を保障する授業。
教職員： ビジョンを共有し、チームとして協同し、成果を分かち合い、社会との関わりを大切にし、自主性を重んじ生徒の成長を支え続ける教職員。

## 2 中期的目標

<p>1. 高い志を持って進路を切り開いて行く力の育成</p> <p>(1) 自らの進路を考える力の育成： 1年『自己発見』、2年『自己探求』、3年『課題研究』を軸として『今宮志学』プログラムの体系化 ※卒業時の学校教育自己診断における「1年、2年、3年での今宮志学」への肯定的回答を全て80%以上とする。</p> <p>(2) 『考える力』、『まとめる力』、『伝える力』の育成： 生徒が発表する機会・場の提供と生徒相互の取り組みへの支援・育成 ※今高生の主張、英語スピーチコンテスト、生徒自治活動、クラブ活動、サマーセミナー、野外スクーリングの実施</p> <p>(3) 国際感覚と国際交流力の育成： 海外交流と生きた英語に接する場の提供とそれぞれのレベルでの英語表現力の向上 ※ 英語暗誦大会、海外語学研修（オーストラリア・米国）、海外留学生・海外学校訪問受入れ、特色ある英語選択科目（『映画で英語』等）の提供 ※ 英検等外国語認定試験にトライする風土の育成。</p> <p>2. 自己実現のための学力保障と進路保障</p> <p>(1) 総合学科の特性を活かしたカリキュラム編成</p> <p>ア. 大学進学を中心課題とし、社会と生徒・保護者の多様なニーズに応え、生徒の将来に資するカリキュラム編成 ※卒業時の学校教育自己診断における次の2つの項目における肯定的回答を共に90%以上とする。</p> <p>①「選択科目の内容は、期待通りであった。」 ②「選択した科目で、自分の進路選択につながるものが十分あった。」</p> <p>(2) 授業の充実</p> <p>ア. ICT活用、授業アンケート、研究授業、授業評価による教科チーム毎の授業力の向上と今高にふさわしい教育力向上システムの確立。 ※研究授業実施回数 年間国数英理社2回以上、他教科1回以上（計15回以上）</p> <p>(3) 進路保障</p> <p>ア. 自らが学びへの高い志と意欲をもって学習に取り組む生徒の育成 ※ 卒業時の学校教育自己診断における生徒の「家庭学習(予習・復習)」項目の肯定的評価をH28年度70%に高める。(H25年度45%)</p> <p>イ. 国公立及び有名私大(関関同立産近甲龍・有名女子大)合格レベルの学力育成を支援する情報提供と学習指導の充実 ※ 国公立と有名私大(関関同立産近甲龍・有名女子大)への進学者合計が、四年制大学進学者の70%以上を占める。 ※ センター試験において平均点以上を獲得する生徒を増やす学習指導。 ※ 英検準2級以上の資格取得者が卒業生の70%以上を占める。</p> <p>3. 個性を輝かす生徒の育成</p> <p>(1) 生徒と向き合う時間の確保のためのICT活用推進 ※ 生徒情報の共有化と校務の効率化</p> <p>(2) 生徒相談体制の充実 ※ 卒業時の学校教育自己診断における保護者の「子どもの心身の健康についての相談」項目の肯定的評価をH28年度80%に高める。(H25年度72%)</p> <p>(3) 自主性を大切にしながら、生徒に規律と習慣を身につける生徒指導 ※ 遅刻者数の一層の低減(対H24年度比50%減)</p> <p>4. 社会に開かれた学校づくりの推進</p> <p>(1) 学校情報の発信(ホームページの一層の充実、学校説明会、中学校訪問) ※ ホームページ平均1日アクセス数を、平常時500回/日、行事時期1,000回/日に増加させる。</p> <p>(2) 地域貢献(教養講座の充実と地域行事への参加) ※ 教養講座の定期的開催</p> <p>(3) PTA、同窓会、後援会の皆様との連携の強化 ※ 1・2年生保護者アンケートにおける「学校ではPTA活動は活発であったか」項目の肯定的評価を、H28年度80%に高める(H25年度63%)</p>
---

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>■保護者満足度：『子どもが今宮高校で学んでよかった』の肯定的回答 1年保護者100%、2年保護者94%、3年保護者96%と好結果。 生徒の学校生活の満足度と活発なPTA活動が要因。</p> <p>■ICT使用授業の充実：『ICTが授業等で活用されている』の肯定的回答 生徒全体での肯定的回答が84%と改善された。 特に1年生91%、2年生92%と高い結果となった。 反面、3年生は66%にとどまった。演習授業の多さが主要因と推定。</p> <p>■校内運営：『分掌・学年の有機的連携』の肯定的回答 43%とやや改善されたが、改善目標を達成できなかった。 分掌間、学年・分掌間の情報の流れの改善が必要と思われる。</p> <p>■学習習慣：『毎日学習した』への肯定的回答 学習習慣改善は、ここ数年取り組んできた大きな課題の1つである。 H26：22%→H27：27%→H28：34%(今回)と改善されつつある。 特に今回2年生が37%となった。 学習指導カード、学力生活実態調査活用の取り組みの成果である。</p> <p>■授業への取り組み：『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答 本項目も、授業態度の指標として大事にしてきた指標である。 H26：40%→H27：47%→H28：53%(今回)と改善されつつある。 全学年で50%を超え、特に3年生は55%に達した。 教員の授業改善努力の成果である。</p>	<p>第1回学校協議会(H28年6月11日)</p> <p>■今宮ブランド意識の高揚について 今宮ブランド向上のために、アドミッションポリシーに『志』という文言を入れてはどうか。今宮高校を志望する中学生が、『志』とは何かを考えてもらうことが大切だ。</p> <p>■自己実現のための学力保障と進路保障について 長い目で見たときに、『人間力を育てる・幅広い知識をつける』『興味関心のある教科を選択する』の両方ができる総合学科であり続けてほしい。 大学で教えていて、総合学科の卒業生は、課題研究等で発表等を通じ学んだ『まとめる力』等が非常に優れている。この総合学科の力強さを維持・発展させて欲しい。</p> <p>第2回学校協議会(H28年11月18日)より</p> <p>■中学生・保護者参加行事の充実について 現在、中学生には、普通科、国際学科、総合選択制等のさまざまな選択肢があるなか、普通科高校は、『わからなければ、とりあえず普通科』という広報をしている。総合学科と普通科との違いや総合学科の良さをどう説明するかが大事だと思う。</p> <p>第3回学校協議会(H29年2月21日)より</p> <p>■授業アンケートの活用について 大学でも授業アンケートが実施され活用されつつある。「教員の工夫」「授業で教えるポイント」等について、生徒たちが教員に対してどう思っているのかを分析し改善していくことは、今宮高校の教育を支えていくために必要なことだと思う。</p>

## 府立今宮高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路を切り開いて行く力の育成 高い志を持って	今宮ブランドの意識共有と高揚	(1) 今宮ブランド意識の高揚 ア. 校歌に親しみを感じ歌う機会の充実  イ. 自治会による校歌 DVD 作製 ウ. 生徒リーダー層の意識高揚 エ. 今宮高校の伝統行事の熟成 (今高祭、今高生の主張、スピーチコンテスト等の開催) (2) 学校としての統一感の醸成 ア. 3年間の育成計画の共有と公開。 イ. 数学到達レベルの定義と共有 ウ. 今宮学校生活モデルの共有と啓蒙	(1) 今宮ブランド意識高揚 ア. 校歌に親しむ機会 6 回 (H27 5 回) イ. 校歌 DVD の完成。 ウ. クラブリーダー会議 2 回 (H27 0 回) エ. 伝統行事開催 4 回以上 (H27 4 回) (2) 学校統一感の醸成 ア. 生徒・保護者等への説明の実施 10 回以上 (H27 8 回) イ. 数学基礎力確認テストの実施 2 回 (H27 0 回) ウ. 生徒・保護者等への説明の実施 10 回以上 (H27 8 回)。	(1) 3 年生有志と各クラブにより校歌 DVD が完成。110 周年式典、学校説明会等で使用開始した。 ア. 6 回。(○) イ. 完成 (創立 110 周年記念式典等で披露) (○) ウ. 2 回実施。(○) エ. 4 回実施 (今高祭、後夜祭、今高生の主張等) (○) (2) 今宮 3 年間育成プログラムを作成し、各種説明会において配布。週 14 時間学習とともに啓蒙。 ア. 12 回。(◎) イ. 1 回。(△) ウ. 10 回済。(○)
進路保障 自己実現のための	国公立及び有名私大 (関関同立産近甲龍・有名女子大) 合格レベルの学力育成。	(1) 進路指導システムの充実 ア. 模擬試験の実施 イ. 模擬試験等分析会の開催 ウ. 進路指導資料の整備 (2) センター試験への取り組みの進化 ア. センター試験受験者数の維持 イ. センター試験教科別平均点以上獲得のべ人数の増加 (3) 国公立・有名私大進学比率の増加	(1) 進路指導システム ア. 1 年 1 回, 2 年 2 回, 3 年 6 回 (H27 9 回) イ. 5 回/年以上の開催 (H27 5 回) ウ. 担任団への提供 (2) センター試験 ア. 前年以上の受験者数 (H27 年度 137 名) イ. 教科別獲得者数 5% 増 (H27 年度 延べ 344 名) (3) 対四年制大学進学者比 70% (H27 64%)	(1) 3 年生進路指導の核として模擬試験を実施し、分析会で共有を進めている。 ア. 3 年: 1 回。2 年: 2 回、3 年: 6 回、計 9 回実施済。(○) イ. 5 回実施済み。(○) ウ. 進路マニュアルの整備 (○) (2) センター試験を学力保障の指標として重視。 ア. センター試験受験者数 144 名 (○) イ. センター試験教科別平均点以上獲得のべ人数 H28 年度 362 名、前年比 5.2% 増 (○) (3) 対四年制大学進学者比 67% (△) 64%→67%と 3% 改善するも、目標には届かず。
自己実現のための学力保障	学力・学習習慣データ把握の定着と英語力の向上	(1) 学力の定量把握の定着 ア. 学力生活実態調査学力リサーチの実施  イ. 学力生活実態調査分析会の実施 (2) 授業の充実 ア. ICT 機器の充実と ICT 使用授業の増加  イ. 生徒がしっかり声が出ている授業の増加 (3) 英語力の強化 ア. 英検 2 年生原則全員受験の推進。 イ. 英検準 2 級以上保持者率増 ウ. 2 年生集中講座の実施 (4) 生徒の学習習慣の定着 ア. 学力生活実態調査学習習慣リサーチの実施 イ. 自学イベントの実施 (学習会サマーセミナーとウィンターセミナーの開催) ウ. 学習記録カードシステムの定着	(1) 組織・制度 ア. 学力生活実態調査の実施 (1~2 年, 2 回/年) (H27 2 回) イ. 年 2 回 (H27 2 回) (2) 授業の充実 ア. 『ICT 機器が授業等で活用されている』の生徒の肯定的回答 83% 以上 (H27 82%)。ICT 授業の公開 10 回 イ. 学校教育自己診断『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答 50% 以上 (H27 年 47%) (3) 英語力の強化 ア. 221 名以上の受験 (H27 221 名) イ. 70% (H27 卒業生 21%)。ウ. 1 単位の実施: (H27 0 単位) (4) 学習習慣の定着 ア. 1~2 年生: 年 2 回実施 (H27 2 回) イ. サマーセミナー、ウィンターセミナーを、各 1 回開催 (H27 各 1 回) ウ. 学校教育自己診断『毎日学習した』への肯定的回答 33% 以上 (H27 年 27%)。	(1) 1~2 年の学力定着・学習習慣の定点観測として学力生活実態調査を実施。分析会を通じ把握活用。 ア. 学力生活実態調査 1~2 年: 各 2 回実施済。(○) イ. 分析会 2 回実施済。(○) (2) 『ICT 化』と『生徒の声が出る授業』を重点として取り組んだ。 ア. 学校教育自己診断『ICT 機器が授業等で活用されている』の生徒全体での肯定的回答 84% (○)。ICT 授業の公開回数 10 回 (○) イ. 学校教育自己診断『授業中大きな声で発言している。』への肯定的回答 53% (◎) (3) 生徒の英検資格取得を支援するため、校内英検対策講習、校内での英検一次試験を実施した。 ア. H29 年 1 月 2 年生 223 名受験。(○) イ. H28 年度卒業生 68%。(△) ウ. 12/26~27: ウィンターセミナーで実施。(○) (4) 学習記録カードをツールとして活用し、学習習慣向上に努め、学力生活実態調査で結果を把握活用。 ア. 1~2 年: 各 2 回実施済。(○) イ. 1 年 7/25~27 サマーセミナー実施済。(○) 2 年 12/26~27: ウィンターセミナー実施済。(○) ウ. 学校教育自己診断『毎日学習した』への肯定的回答 34% (○)
個性を輝かす生徒の育成	生徒の学校生活の充実と生活習慣の改善支援	(1) より風通しのよい職場の実現  ア. 経営会議の定期的開催 イ. 分掌・学年会への管理職の出席 ウ. ビジョン 21 の活動推進 (2) 生徒の生活習慣の改善 ア. 整理整頓の改善  イ. 遅刻の改善 (3) 教育相談委員会を中心とした相談活動の充実と情報の共有化 ア. 教育相談室会議の定期開催 イ. 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用	(1) 学校教育自己診断『分掌・学年の有機的連携』の肯定的評価 60% 以上。(H27 年度 41%) ア. 経営会議 26 回以上開催 (H27 25 回) イ. 管理職出席 26 回 (H27 25 回) ウ. ビジョン 21 による学校課題の解決推進 2 件 (H27 0 件) (2) 生徒の生活習慣 ア. 下足箱の整頓率 97% (H27 年: 95%)。 イ. HR 遅刻 5 回以下比率 80% (3) 相談活動 ア. 教育相談室会議の定期開催 (月 1 回以上) イ. 学校教育自己診断『子どもの心身の相談』項目の肯定的評価 70% 以上。(H27 年度 66%)	(1) 管理職の分掌・学年会への出席を始めた。学校教育自己診断『分掌・学年の有機的連携』への肯定的回答 43% (△) ア. 28 回開催。(○) イ. 31 回出席。(◎) ウ. 2 件推進済み。(110 周年、広報) (○) (1 月中学進路希望調査で本校志望者前年比 63 名増) (2) 遅刻総数から、規律遵守の人数比に指標を変更しより生徒実態の把握につながるか試みた。 ア. 97% (○) イ. 80%。(○) (3) 教育相談委員会・保健部・学年連携のもと生徒支援に努めている。 ア. 28 回開催済み。(◎) イ. 学校教育自己診断『子どもの心身の相談』への肯定的回答 59% (△)

## 府立今宮高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">社会に開かれた 学校づくり</p>	<p>中学生参加行事の充実とPTA・同窓会・後援会の皆様との連携推進の継続</p>	<p>(1)中学生・保護者参加行事の充実 ア.中学生・保護者・塾等関係者の来校者増 イ.オープンスクール・学校説明会・スポーツフェスタ等の開催回数増 ウ.スポーツフェスタに加え文系クラブを含めたクラブフェスタの開催。 (2) 中学校・塾への効率的な訪問の実施 (3) 教養講座の定期開催 (4) 創立110周年記念事業の成功</p>	<p>(1) 中学生参加行事 ア.オープンスクール等への年間参加者2,000名以上(H27 1895名) イ.7回以上(H27 6回) ウ.1回以上(H27 0回) (2) 中学・塾訪問170回以上(H26年度160回) (3) 10講座以上の開講。 (4) 11/12 記念式典の開催。</p>	<p>(1) 学校説明会等や中学訪問の回数を増加できた。これらの効果もあり、入学志願者が昨年を上回った。 ア.来校者総数2,216名。(◎) イ.7回実施。(○) 11/20 中学今宮ソフトテニス大会：雨天中止。 ウ.1回実施済。(○) (2)281回(◎) (3)25講座開講。(◎) (4)式典開催成功。(○)</p>
--	---	--	--	---